



有意義な夏休みを！

7月中は夏季課外が実施されます。夏季課外は通常の授業では不足する問題演習を確保する時間であり、知識を補強する時間ともなります。自学自習では気づけない解法を説明されたら新たに理解を深め、間違っているところに気づいたら修正しましょう。

7月31日からは本格的な夏休みに突入します。部活動や遠征、久しぶりの友人との再会など、さまざまなイベントがあるでしょう。しかし皆が分かっているとおり、日々の感染症対策を怠ってはいけません。そして、学習には例年と変わらず取り組まなければなりません。7月31日からの18日間は、起きる時間も寝る時間も遊ぶ時間も、通常より制約がなくなります。だからこそ、君たちの意識が試されます。この期間にどれだけのことができるのか、「何ができる」18日間であるのかを十分に考えてほしいところです。

1, 2年生は、部活動や各自の習い事など、多忙な日々を過ごす人も多いでしょうが、通常と同じ生活リズムで過ごし、安定した学習時間を確保してください。自分の「苦手克服」のために、各教科の課題をうまく活用しましょう。ただ終わらせるだけでなく、何度も解き直したり、教え合ったりして苦手を克服していきましょう。

3年生は、言うまでもなく勝負の夏です。受験科目や配点を確認し、志望校合格には「何」が「どれだけ足りないのか」を把握しましょう。また、自分の「強み」を「どれだけ生かせるか」を意識しましょう。詳しくは裏面の記事で紹介しますが、これまでの模試の結果などから自分の得手不得手を再確認して「この夏の重点項目」を設定しましょう。この時期に繰り返される「**夏を制するものは受験を制する**」という言葉は真実です。ただ量をこなすのではなく、確かな戦略をもって学習に取り組み、志望校合格に近づくための夏にしましょう。

また、1日10時間以上の学習時間確保にチャレンジしてみましょう。コツは、まず朝は普段通りに起きて、午前中に3～4時間取り組むことです。昼間に2～4時間勉強し、夜は「いつも通りに」3～4時間学習すると、確実に10時間以上を達成することができます。この夏にしっかり学習に取り組んだ生徒は、秋以降、驚くほど学力を伸ばします。この夏、皆がひとまわり成長してくれることを期待しています。

夏の進路の考え方

7月5日(月)、6日(火)の2日間、3年生の進路検討会が行われました。進路検討会では、記述模試や共通テスト模試の結果等を参考にして、「生徒が希望進路を実現させるためにどのような対策をとればいいのか」ということについて議論しました。

3年生は、三者面談では今回の検討会の内容を踏まえたアドバイスをもらいましょう。個別学力試験の試験科目や配点を意識し、第1希望・第2希望の設定をどうするか、具体的な戦略を立てましょう。

2年生は、7月21日(水)に「かごしま“職”の魅力発見プロジェクト」で職業の情報を得ます。何が自分の将来を決めるか分かりません。今回のプロジェクトをきっかけの一つとして、様々な職への関心を広げましょう。同時に、受験のシステムや受験科目についての知識を増やし、受験を具体的にイメージしましょう。

1年生は、学部学科や職業について「そのうち考える」ではなく、「何が分からない」のかを自覚できるようになりましょう。秋以降は、文理選択について考えなければなりません。その時に安易な選択をしないためにも、三者面談で確認したことや自分で調べたことをもとに、将来へ思いを馳せましょう。

受験の準備に「早すぎる」はない

「進路指導室だより5月号」で紹介したとおり、「キャリアパスポート」などを用いて、自分の活動の記録を残しましょう。ボランティア活動や表彰、校外での活動については、後で思い出して記録するのではなく、その都度記録しましょう。国立大学協会は、「学校推薦型選抜」と「総合型選抜」、これに国際バカロレア入試等を加えた入学者を、入学定員の3割に拡大しました。自分の学業以外の取組が、これらの入試で生きる可能性があります。時間にゆとりのある夏休みを利用して、活動の幅を広げるのも、良い夏休みの過ごし方です。

夏休み中の学習室等の注意点

学習室の利用時間は、8:30～16:30です。

以下の期間は学習室・図書室が使えません。

8/13～8/15 (学校閉庁のため)

(図書室は8/3・4も閉館)

自分の課題を分割する

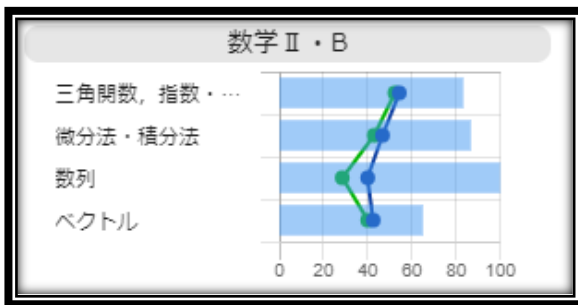
進路指導室だより6月号で、「課題を分割」することについて述べました。ここでは、より具体的に説明します。

棒グラフが本人の成績、折れ線グラフが全国（県）平均です。「世界の自然環境」「世界の生活文化」「三鷹市の地域調査」が30%台の得点率です。この中で、まずクリアしなければならないのは、どの分野でしょうか。



答えは「三鷹市の地域調査」です。なぜこの分野が重要かという、全国平均が60%あるからです。他の2分野も克服しておきたい得点率ですが、他の受験生にとっても課題です。しかし「三鷹市の…」は、「差を付けられている」分野です。「世界の産業」で得たアドバンテージを、ここで放出してしまっているのです。同様の問題を繰り返し練習し、早期の克服を目指しましょう。

では、次のグラフからは、何が分かるでしょうか。



答えは「数列が武器」ということです。単に得点率が高いだけでなく、平均点のグラフから分かるように、他の受験生に「差を付けている」分野だと言えます。高校生は、苦手克服に注力し、なかなか克服できないことに焦りを覚えます。ただ、「できたこと」も数えましょう。得点の源、自信の源を意識することは、心に余裕をもたらします。3年生は、6月共通テスト模試の最新結果が手元にあるはず。自分の課題を分割し、夏休み中の自由に使える時間を利用して、自己理解を深め、行動に移しましょう。

学習効率を上げる

自分の課題を克服するためには、実際どう行動すればよいのでしょうか。

PDCAサイクルという言葉を知っていますか。プロセスを重視した、課題克服に対して有効な手法ですが、詳細については各自で調べてみてください。ここでは「OODAループ」という手法を紹介します。

OODAループとは、「①観察(Observe)」、「②状況判断(Orient)」、「③意思決定(Decide)」、「④実行(Act)」という4つのステップと「⑤見直し(Loop)」で構成されています。左の地理Bを例にすると、

- ①地理Bの得点が不十分である。
- ②低得点率分野の内、特に「三鷹市…」が課題である。
- ③地域をテーマにした問題演習に取り組むと決める。
- ④問題数や日数、期限を決めて取り組む。
- ⑤取組内容が適切だったか、結果がどうであったか、次の取組をどうするかなどを確認する。

となります。他にも、②の段階で「分野」ではなく「勉強法」の検討をするのもよい方法です。大切なのは、複数の計画を立てて、そこから選ぶということです。

また、効果的な学習には、「レミニセンス効果」が欠かせません。レミニセンス効果とは、情報を記憶した直後よりも、一定時間経ってからのほうがよく思い出せるというもので、特に効果的に記憶されるのは寝る前に学習した内容であると説明されています。したがって、レミニセンス効果を得るためには、寝る前に余計な情報は頭に入れないようにすることが必要です。スマホの使用、特にSNSや通信アプリの使用が学習内容を忘れさせるという科学的なデータもあります。

「モチベーションの維持」も大切です。これには、積み重ねた勉強量を「見える化」という方法があります。C-passに正確な時間を記録し、累積の勉強時間を書き出したり、計算や暗記の学習は全てボールペンで行い、使い切ったボールペンの芯を保管したりするという方法です。そうすることで、自分が確実に勉強しているという実感を手にすることができます。「合格体験記」や「不合格体験記」を読んで良いイメージや打ち克つイメージを作るのも良いでしょう。

大学入学共通テストまであと179日。頑張り3年生！